

授業科目	教育の方法と技術			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	荒明 聖						
ナンバリング	ESU1B21	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	関係法規、指導要領、保育指針等をふまえ、幼児教育・保育の基盤となる子ども像の理解を中心に、保育計画・実践・評価の基礎的な理論と保育実践の方法を理解する。さらに、保育実践の下支えとして保育案やおたより作成、連絡帳への記載等の具体的な手法を身につける。						
到達目標	・子ども理解の在り方について理解し、子どもの具体的な実態や状況場面をもとに考察する。 ・保育に係る様々な手法を、基礎的な理論と指導技術面から理解して技能を習得する。 ・情報機器を活用した保育案やおたより作成等に関する基礎的な知識・技能を身につける。 ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を身につけることができる」力を身につける。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
授業計画	第 1 回	テーマ	子どもの特性と保育方法				
		内 容	オリエンテーション、子どもの特性を知り対応する保育方法について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読み解く。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。				
	第 2 回	テーマ	子どもを生かす保育者のかかわり				
		内 容	次代を担う子どもに求められる資質・能力育成のための保育方法の在り方を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。				
	第 3 回	テーマ	主体的・対話的・深い学びって？				
		内 容	主体的・対話的で深い学びを導く保育者のかかわりについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。				
	第 4 回	テーマ	遊びと学び				
		内 容	学びや生活の基盤をつくる『架け橋期の保育』をとらえた遊びと学びについて学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。				
	第 5 回	テーマ	一人と仲間と集団と				
		内 容	個とグループと集団組織の特徴と留意点について、具体的な実践事例から学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。				
	第	テーマ	どうとく どう説く どう解く①				

	6 回	内 容	幼児の道徳性の芽生えと発達段階における判断・心情理解・実践力について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。
	第 7 回	テーマ	どうとく どう説く どう解く②
		内 容	幼児の道徳性の芽生えと発達段階における判断・心理理解・実践力について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。
	第 8 回	テーマ	用具と道具と教材と素材①
		内 容	保育方法に関連して、保育現場における身近な話題を集約し小集団で考え合う。
		授業時間外 学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。
	第 9 回	テーマ	用具と道具と教材と素材②
		内 容	小集団で考え合った身近な話題について、工夫した表現方法により発表し合う。
		授業時間外 学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。
	第 10 回	テーマ	ICT 活用と保育
		内 容	保育者が日常的に活用している ICT 機器について知り、具体的な活用場面を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。
	第 11 回	テーマ	情報の収集・判断・発信
		内 容	保育現場における様々な情報の収集と選択、判断と的確な発信について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。
	第 12 回	テーマ	「おたより」書いてみる？
		内容	保育現場で活用できる実践的な「おたより」作成のノウハウを実践的に学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。
	第 13 回	テーマ	選択テーマによる学び①（はじめ～なか）
		内 容	情報収集－検討の活動を通してコミュニケーションの測り方や工夫についてグループワークにより実践的に学ぶ。（前半；個～小集団）
		授業時間外 学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。
	第 14 回	テーマ	選択テーマによる学び②（なか～むすび）
		内 容	情報発信－共有の活動を通してコミュニケーションの測り方や工夫についてグループワークにより実践的に学ぶ。（後半；小集団～全体）
		授業時間外 学修	予習：授業計画を把握し、示されたテーマをもとに課題意識を高める。 復習：授業内容をふまえた各自の視点で整理し、次時の質問事項をまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめと「小論文」
		内 容	講義のまとめ、「保育・教育の方法と技術」についての「小論文」作成
		授業時間外 学修	予習：「小論文」作成にあたり、これまでの学びから自分なりのテーマを考えておく。 復習：授業内容をふまえ各自の視点で整理する。

教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月公示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園・保育要領（平成 29 年 3 月公示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
参考書・参考資料等	講義・演習において適宜配付。
成績評価の方法・基準	講義・演習後の「小レポート」（14 回）及び「小論文の作成」（1 回）により、理解・考察する諸能力の状況（70%）、「コミュニケーション能力」（3）「伝え合う手段を身につけることができる」の獲得状況（20%）、出席度（10%）により評価する。
課題に対するフィードバックの方法	「小レポート」（14 回）は、次時の講義・演習において解説してフィードバックする。 「保育案」「小論文」は、実施後に講評する。
授業時間外学修	予習、復習ともに授業計画で示した内容を実施（各 20 分間程度）し、既習事項と本時内容との関連性をふまえた効果的な学びとすることで資質・技能を高めるようにする。
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 国立幼稚園で 4 歳児保育、国立小学校で文部科学教官・教頭、公立小学校で教諭・教頭・校長、教育行政（幼児教育・生活科教育・道徳教育担当）の実務経験をもつ。幼稚園教員養成課程卒であることから自身の具体的な経験をふまえて指導する。 また、講義内容は、実務経験を生かした実技・グループワーク・作業等の主体的・対話的な学びの手法を毎回短時間でも取り入れるスタイルとする。 なお、学生の理解度や講義・演習に係る社会情勢をふまえて内容を一部変更することがある。
連絡先（質問等）	オフィスアワー 金曜日 12 時 25 分～12 時 55 分、講義・演習の前後、その他要相談。

授業科目	特別支援教育入門			授業形態	演習	単位数	2 単位
担当者	渡辺聡						
ナンバリング	ESF2A22	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1) 理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2) 専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1) 基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2) 実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3) 学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	授業では、障害児保育や特別支援教育の基本的概念や理論および現状を学ぶ。また、障害の種類や特性に応じた個別の支援計画・個別の指導計画について理解を深めていくことになる。入門の授業では、講義と演習を併用し、グループワークも行いながら学びを深めていく。また、課題の提出においては、手描きの他に Google form で回答を求める場合がある。フィードバックは、当該授業で行う。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・ 障害の種類と特徴、関わり方についての理解を促進し、子どもの教育的ニーズに対応した保育支援を行うための基礎力を磨く。 ・ 子どもの障害の情報共有と保護者や外部機関との連携について理解し、基本的な個別の支援計画・個別の指導計画を作成することができる。 ・ 「自分で考え、実践できる能力」(5)「自分の価値観に基づいて判断し、実践することができる」を身に付ける。＝グループ発表						
授業計画	第 1 回	テーマ	障害児保育の基本				
		内 容	授業の進め方・基本概念・歴史的変遷・障害児保育制度についての理解。				
		授業時間外学修	予習：「障害」の文言からもつイメージを、授業で表現できるようにする。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。				
	第 2 回	テーマ	障害児教育の現状				
		内 容	インクルーシブ教育・合理的配慮・通級指導について理解し、特別支援教育の現状や問題点について整理する（次時に取り組む演習課題への対応も含む）。				
		授業時間外学修	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。				
	第 3 回	テーマ	発達と脳障害				
		内 容	発達と脳の関係や脳の発達に影響を与える障害について理解を深める。				
		授業時間外学修	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。				
	第 4 回	テーマ	運動障害（肢体不自由）について				
		内 容	運動障害について、その定義、障害の状況、支援方法について演習課題を基に協同的な学びで理解を深める。				
		授業時間外学修	予習：運動障害についての定義・障害状況・支援方法について教科書を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。				

	第5回	テーマ	視覚・聴覚障害について
		内 容	視覚・聴覚障害について、その定義、障害の状況、支援方法について演習課題を基に協同的な学びで理解を深める。
		授業時間外学修	予習：視覚・聴覚障害についての定義・障害状況・支援方法について教科書を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
	第6回	テーマ	知的障害について
		内 容	知的障害について、その定義、障害の状況、支援方法について演習課題を基に協同的な学びで理解を深める。
		授業時間外学修	予習：知的障害についての定義・障害状況・支援方法について教科書を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
	第7回	テーマ	発達障害について
		内 容	発達障害について、その定義、障害の状況、支援方法について演習課題を基に協同的な学びで理解を深める。
		授業時間外学修	予習：発達障害についての定義・障害状況・支援方法について教科書を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
	第8回	テーマ	重度心身障害について
		内 容	重度心身障害について、その定義、障害の状況、支援方法について演習課題を基に協同的な学びで理解を深める。
		授業時間外学修	予習：重度心身障害についての定義・障害状況・支援方法について教科書を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
	第9回	テーマ	特別に配慮を要する子どもへの保育
		内 容	特別に支援を要する子どもの保育を支える状況を学び、個別の支援計画や指導計画を立案する際の留意点について理解を深める。
		授業時間外学修	予習：個別の支援計画と個別の指導計画について教科書や参考書で調べる。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
	第10回	テーマ	個別の支援計画・個別の指導計画
		内 容	保育目標の設定や立案の流れを再確認し、個別の支援計画や個別の指導計画の立案実習を行う。
		授業時間外学修	予習：個別の支援計画と個別の指導計画について復習する。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
	第11回	テーマ	連携・協働を意識した保育体制の構築
		内 容	連携・協働した保育について、その概念・基礎資料の活用・ケースカンファレンスの在り方について理解を深める。
		授業時間外学修	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
	第12回	テーマ	障害が疑われる子どもの保育
		内 容	障害が疑われる子どもの現状を理解し、保護者も含めた外部支援の考え方に関して理解を深める。
		授業時間外学修	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
	第	テーマ	子どもの発達と生活～こども同士の関わり～

	13 回	内 容	発達差の顕著な子どもたちを保育するために、子ども同士の関わり合いの特徴を理解し、演習を通して集団内の問題行動に対処する方法を学ぶ。
		授業時間外	予習：教科書の該当箇所を読む。
		学修	復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理したりまとめたりする。
	第 14 回	テーマ	障害に対する保育者としての関わり
		内 容	視覚障害・聴覚障害・肢体不自由の疑似体験を基に、保育士としての自分の関わりを再確認し、障害に対する支援や寄り添い方を深く知る。
		授業時間外	予習：アイマスク・白状・イヤーマスク・重鎮バンドについて調べる。
	第 15 回	学修	復習：体験内容からの自分の考えや思いを整理してまとめる。
		テーマ	まとめ
		内 容	特別支援教育に関する学びを振り返り、保育者としての考えや思いを深める。
	第 15 回	授業時間外	予習：既習内容の振り返り、疑問点・問題点や理解が浅い点を明らかにする。
学修		復習：疑問点・問題点の理解のため、様々な資料から学修を深める。	
教科書・テキスト		障がい児保育（小橋明子 監 小橋拓真 編 中山書店）	
参考書・参考資料等		新基本保育シリーズ 17 障害児保育（児童育成協会 監 西村重稀 水田敏郎 編 中央法規）	
成績評価の方法・基準		提出シートとレポート、授業への取組で評価する。 授業参加度（15%）、各授業で課された問題に対する提出シート内容（知識 30%）と最終レポート内容（専門的思考 40%）、「自分で考え、実践できる能力」（5）自分の価値観に基づいて判断し、実践することができる＝グループ発表（15%）の内容と様子で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法		提出シートとレポート返却を、次の回の授業で行う。グループ発表等の演習では、その都度講評や感想を伝え、効果や懸念される内容を再確認する。最終レポートは、研究室等の場を設定して返却する。	
授業時間外学修		予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画に示された内容を実施する。 レポートが課された際は、授業内容・資料や参考書の内容を学修し、自らの視点を挿入しながら総合してまとめる（約 45 分）。返却された提出シートやレポートを再吟味し、学修内容の理解を深める（約 2 時間）。	
備 考		授業欠席の場合は、該当週中に資料を受け取り、その週中に提出すること。尚、授業内容や順番は、授業進度によって変更されることがある。	
連絡先（質問等）		オフィスアワー 木曜日 12 時 25 分～12 時 50 分に対応する。 または、授業後に教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	保育内容指導法			授業形態	演習	単位数	2	単位
担当者	高桑秀郎・大室亜樹							
ナンバリング	ESM1B23	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	幼児:必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	幼児教育において育みたい資質・能力を捉えた上で、具体的な保育場面を想定するために映像資料も活用しながら計画の立案・演習を行い、その評価を行う。なお、演習においては、幼児の体験を補完することを意図した情報機器の活用法についても学ぶ。授業はグループディスカッションを含むグループワークを中心に進められ、その内容はワークシートに毎時まとめていくこととなる。							
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○		
到達目標	・実際の教材研究を通して当教材の可能性、実践上の注意点等を把握し、説明できる。 ・幼児の発達を促し、なおかつ教師の個性を反映させた指導案を予測できる。 ・保育実践（情報機器の活用を含む）とその研究法について説明できる。 ・評価の意義と基本的な枠組みを説明できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。							
授業計画	第 1 回	テーマ	イントロダクションー教材研究とはー（高桑・大室）					
		内 容	今後のグループワークを進めるにあたり、グルーピングを行い、グループワークの留意点を確認する。そして、教材製作・研究の枠組みを学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第 2 回	テーマ	教材演習（1）シャボン玉（大室）					
		内 容	教材「シャボン玉」の演習を通して、その採用時期、注意点・対策、工夫、さらなる準備物、導入、効果に関して検討する。					
		授業時間外学修	予習：連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第 3 回	テーマ	教材演習（2）秋の自然物を使った遊び①(大室)					
		内 容	秋の自然物はどのような場所に実っているのか、収集の仕方・収集した自然物の保存方法を知り、実際に行ってみる。					
		授業時間外学修	予習：連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめ、秋の自然物の収集等を行う。					
	第 4 回	テーマ	教材演習（3）秋の自然物を使った遊び②（大室）					
		内 容	実際に収集してきた自然物を用いて、オブジェを製作する。					

	回	授業時間外 学修	予習：連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 5 回	テーマ	教材演習（４）秋の自然物を使った遊び③～保育における ICT の活用～（大室）
		内 容	自然物を収集した時の写真等を用いて、ドキュメント記録を作成する。
	第 6 回	授業時間外 学修	予習： 連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
		テーマ	教材演習（５）リトミック テーマ「クリスマス」（大室）
	第 7 回	内 容	リトミックを知り、体全体を使って豊かに表現し、イメージする世界観を楽しむ。
		授業時間外 学修	予習：連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 8 回	テーマ	教材演習（６）スライム（大室）
		内 容	教材「スライム」の演習を通して、その採用時期、注意点・対策、工夫、さらなる準備物、導入、効果に関して検討する。
	第 9 回	授業時間外 学修	予習：連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
		テーマ	保育研究と実践記録の意義（大室）
	第 10 回	内 容	実際の保育現場で行われている保育の動画や事例から、保育実践研究と実践記録の方法を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：配布資料を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 11 回	テーマ	幼稚園教育の基本と保育内容および指導法について（高桑）
		内 容	「幼児期にふさわしい生活の展開」「遊びによる総合的な指導」「一人一人の発達に応じた指導」について、子どもを取り巻く環境や社会等多面的な視点から今日の幼稚園教育を理解する。
	第 12 回	授業時間外 学修	予習：事前配布された資料に目を通しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
		テーマ	幼児理解と指導計画について（高桑）
	第 13 回	内 容	子どもの経験とそれによって学習される子どもの育ちについて考える。
		授業時間外 学修	予習：配布資料を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 14 回	テーマ	指導案の考え方（高桑）
		内 容	PDCA サイクルにおける Plan 箇所の一部である指導計画について、その考え方や一般的な形式を学ぶ。
	第 15 回	授業時間外 学修	予習：配布資料を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
		テーマ	指導案の書き方（高桑）
	第 16 回	内 容	指定された教材に関して、実際に見本を参照しながら指導案を書くことにより、その書き方を習得する。
		授業時間外 学修	予習：配布資料を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 17 回	テーマ	指導案の精緻化（高桑）

	13 回	内 容	書き上げた指導案に関して、ねらい、幼児の姿に関わる必然性、評価を踏まえ、その計画を再検討する。
		授業時間外 学修	予習：配布資料を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 14 回	テーマ	保育活動の振り返りと評価について（高桑）
		内 容	PDCA サイクルにおける Check箇所について、その考え方や観点について学び、Action箇所はどう反映させるかを学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：配布資料を熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	総括（高桑・大室）
		内 容	授業全般を振り返り、その確認を行うと共に、教材研究についてまとめる。
		授業時間外 学修	予習：保育実践に至るまでの一連の流れを振り返り、要点をまとめる。 復習：既習内容を振り返り、疑問点を確認する。
	教科書・テキスト		適宜、資料を配布する。
参考書・参考資料等		新版 遊びの指導 乳・幼児編（幼少年教育研究所編、同文書院） 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
成績評価の方法・基準		毎時提出するワークシート、課題、そして最終レポートから、各領域理解の程度（60%）、「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（10%）、授業参加度（30%）で評価する。	
課題に対する フィードバックの方法		各回のワークシートや課題はその次の回に、最終レポートは最終回において、採点の後、レビューする。	
授業時間外学修		予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 レポートが課された際は資料を見直し、内容を理解した上で、関連事項を調べてまとめる。（約 45 時間） 返却された提出物を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約 2 時間）	
備 考		毎週、提出物があり、次回にてそれらは返却される。配布物（資料・ワークシート）が多いので、きちんと整理し、まとめておくこと。欠席が多いと成績判定を行える出席数でも合格点に達しないことがあるので、きちんと出席し、課題の提出を行う事。 必要に応じて、授業内容を変更する場合がある。	
連絡先（質問等）		高桑：オフィスアワー 水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に教室で質問を受け付ける。 大室：授業前後に教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	保育内容（健康）の指導法			授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	高桑秀郎							
ナンバリング	ESM2A24	開講時期	2 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	幼児：必修 保育士：必修			実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	・領域「健康」が目指す指導内容についての理解を進め、保育計画を作成し、保育教材の作成を行う。 ・授業内容についてのワークを進め、実践活動への反映方法への理解を深める。 ・情報機器を利用した保育教材の作成法を学び、実践する。							
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○		
到達目標	・子どもの心身の発育発達と領域「健康」が目指す指導内容について理解し、保育計画作成の要点を理解する。 ・領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解した上で、それらを指導案に反映させることができる。 ・指導案作成時の留意点、子どもの観察の意味を理解し、指導計画を立てることができる。・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身に付ける。							
授業計画	第1回	テーマ	領域「健康」の考え方と改訂点					
		内 容	教育基本法(2006)の主旨が幼稚園教育、保育所での活動にどう反映されているか。					
		授業時間外学修	予習：幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「健康」の部分を熟読しておく。 復習：改めて幼稚園教育要領と保育所保育指針を読む。					
	第2回	テーマ	領域「健康」がはぐくむもの					
		内 容	領域「健康」の目指す子どもの育ちについての考え方を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「健康」の部分を熟読しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第3回	テーマ	教育要領・保育指針等における領域「健康」					
		内 容	乳児から幼児まで年齢別の健康の考え方を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：前回まで配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第4回	テーマ	幼小連携と領域「健康」					
		内 容	領域「健康」ではぐくむものと小学校教育との関連性について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第5回	テーマ	子どもの形態的発育					
		内 容	子どもの形態的な発育の特徴について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。					

		学修	復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第6回	テーマ	子どもの生理機能の発達と動きの発達
		内 容	子どもの生理機能の発達と動きの発達の特徴について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第7回	テーマ	子どもの運動発達とパーソナリティの形成
		内 容	子どものパーソナリティの発達に運動の発達がどう関係するかを学ぶ。
		授業時間外学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第8回	テーマ	乳幼児期の安全教育と事故の予防
		内 容	子どもを事故やけがから守るための方策を考える
		授業時間外学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第9回	テーマ	乳幼児期の基本的生活習慣の形成
		内 容	子どもの発達段階と基本的生活習慣の形成について具体的事例から学ぶ。
		授業時間外学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第10回	テーマ	保育教材作成時の ICT の活用
		内 容	ICT を活用して保育教材を実際に作成する。
		授業時間外学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容が他の教材作成に反映できないかいろいろ試す。
	第11回	テーマ	遊びとしての運動経験と自己決定
		内 容	遊びの経験がはぐくむ非認知能力について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第12回	テーマ	遊びと動きの獲得の関係
		内 容	遊びと動きの獲得との関係性について。
		授業時間外学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内課題について改めて考察する。
	第13回	テーマ	食育について
		内 容	食育の目標やそれらを達成するための保育者の具体的な配慮
		授業時間外学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内課題について改めて考察する。
	第14回	テーマ	食育と保育計画
		内 容	食育における保育計画について、子どもの活動や保育者の配慮についてのワークを行う。
		授業時間外学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内課題について改めて考察する。
	第15回	テーマ	指導案と振り返りの評価
		内 容	保育計画のPDCAについて、評価の観点と指導計画の改善策について。
		授業時間外学修	予習：授業で作成した課題の確認。

	学修	復習：保育の評価について改めてまとめる。
教科書・テキスト	指定の教科書・テキストはありません。適宜、資料を配布する。	
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領ガイドブック（フレーベル館） コンパス保育内容健康（健帛社） 演習保育内容健康 -基礎的事項の理解と指導法-（建帛社）	
成績評価の方法・基準	授業内の課題と提出されたレポートから、子どもの発育・発達に関する専門的理解の程度（60%）、保育者として子どもの望ましい育ちにどうかかわっていくか「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（30%）、授業参加度（10%）で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題については返却を行い、それについてのコメントは課題に書くなり、授業内でコメントするなりする。	
授業時間外学修	予習（各授業回約 15 分）、復習（各授業回約 15 分）、として、授業計画で示された内容を準備・実施する。（約 8 時間） 課題の提出に向け、準備・検討を行う。（約 7 時間）	
備 考	必要に応じて、授業内容を変更する場合がある。	
連絡先（質問等）	オフィスアワー 水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	保育内容（人間関係）の指導法			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	太田裕子						
ナンバリング	ESM2A25	開講時期	2 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児：必修 保育士：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配付資料を用いて乳幼児期の人間関係の発達を学ぶ。また、実習での体験や映像視聴を基に、指導案の作成やグループディカッション、プレゼンテーション等を通して、人と関わる力を育む保育についての理解を深める。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	・ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、説明ができる。 ・ 乳幼児期の人間関係の発達について理解し、説明ができる。 ・ 人と関わる力を育むための保育を構想し、指導案の作成と改善を行うことができる。 ・ 「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	子どもをとりまく人間関係				
		内 容	自分自身の幼少期からこれまでの人間関係を振り返り小レポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：プレゼンテーションについての感想をまとめる。				
	第 2 回	テーマ	領域「人間関係」のねらい及び内容				
		内 容	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいと内容を学び、幼児教育において育みたい資質・能力との関わりについて考える。				
		授業時間外学修	予習：幼稚園教育要領解説 P.50～51、357、361～362、保育所保育指針解説 P.60～61 を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 3 回	テーマ	遊びの中で育つ人との関わり				
		内 容	実習での体験を振り返り、遊びの中で子どもに培われる「幼児教育において育みたい資質・能力」について、グループディスカッションを行う。				
		授業時間外学修	予習：実習日誌を読み直し、遊びの中で見られた子どもの人と関わる姿を再確認しておく。 復習：グループディスカッションについての感想をまとめる。				
	第	テーマ	領域「人間関係」における内容と指導上の留意点				

	4回	内 容	領域「人間関係」のねらいと内容を踏まえ、指導上の留意点について学ぶ。
		授業時間外学修	予習：幼稚園教育要領解説 P. 182～192、保育所保育指針解説 P. 218～227 を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第5回	テーマ	「自立心」、「社会生活との関わり」に関する子どもの発達
		内 容	具体的な事例を踏まえ、「自立心」、「社会生活との関わり」に関する子どもの発達を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：実習日誌を読み直し、「自立心」、「社会生活との関わり」に関する子どもの姿を再確認しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第6回	テーマ	「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」に関する子どもの発達
		内 容	具体的な事例を踏まえ、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」に関する子どもの発達を学ぶ。
		授業時間外学修	予習：実習日誌を読み直し、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」に関する子どもの姿を再確認しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第7回	テーマ	領域「人間関係」の特性及び子どもの体験との関連を考慮した教材の活用（情報機器及び教材の活用を含む）
		内 容	保育実践の事例を踏まえ、協同性や人と関わる力を育む活動や遊びの展開における情報機器や教材の活用について考える。
		授業時間外学修	予習：実習での体験を踏まえ、協同性や人と関わる力を育む活動や遊びの展開に活用できると思われる教材を書き出す。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第8回	テーマ	指導案の作成①協同性を育む活動
		内 容	協同性を育む活動についての指導案を作成する。
		授業時間外学修	予習：協同性を育むための具体的な活動内容を考える。 復習：作成した指導案を見直し、保育実践を具体的にイメージした上で推敲する。
	第9回	テーマ	指導案の作成②人と関わる力を育む活動
		内 容	人と関わる力を育む活動についての指導案を作成する。
		授業時間外学修	予習：人と関わる力を育むための具体的な活動内容を考える。 復習：作成した指導案を見直し、保育実践を具体的にイメージした上で推敲する。
	第10回	テーマ	保育実践の振り返りと改善
		内 容	直近の実習における保育実践の記録を踏まえた省察、評価、改善案の考察を行い、プレゼンテーションを行う。
		授業時間外学修	予習：直近の実習を振り返り、事前配付したワークシートを完成させる。 復習：プレゼンテーションについての感想をまとめる。
	第11回	テーマ	子どもと保育者の関わり①自立心の育ち（映像教材の活用を含む）
		内 容	保育実践の映像視聴を踏まえ、子どもの自立心を育む保育者の関わりについて考える。
		授業時間外学修	予習：直近の実習を振り返り、事前配付したワークシートを完成させる。 復習：授業内容を振り返り、授業終了時に配付したワークシートを完成させる。
	第	テーマ	子どもと保育者の関わり②自己主張と他者理解の育ち（映像教材の活用を含む）

	12 回	内 容	保育実践の映像視聴を踏まえ、子どもの自己主張と他者理解を育む保育者の関わりについて考える。
		授業時間外 学修	予習：直近の実習を振り返り、事前配付したワークシートを完成させる。 復習：授業内容を振り返り、授業終了時に配付したワークシートを完成させる。
	第 13 回	テーマ	子どもと保育者の関わり③協同性の育ち（映像教材の活用を含む）
		内 容	保育実践の映像視聴を踏まえ、子どもの協同性を育む保育者の関わりについて考える。
	第 14 回	授業時間外 学修	予習：直近の実習を振り返り、事前配付したワークシートを完成させる。 復習：授業内容を振り返り、授業終了時に配付したワークシートを完成させる。
		テーマ	乳幼児期の人との関わりと、小学校以降の生活や教科とのつながり
	第 15 回	内 容	乳幼児期の人との関わりの重要性を学び、小学校以降の生活や教科とのつながり、現在の自分に求められる人と関わる力とのつながりを考える。
		授業時間外 学修	予習：幼稚園教育要領解説 P. 90～93、保育所保育指針解説 P. 288～292、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 P. 85～86 を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
		テーマ	領域「人間関係」に関わる現代的課題と保育実践の動向
	第 15 回	内 容	子どもをとりまく人間関係について、高度成長期頃からの事例を踏まえ、現代における特徴と課題、保育実践の動向について考える。
		授業時間外 学修	予習：新聞記事等を参考にして、現代の子どもをとりまく人間関係についての課題にはどのようなものがあるかを書き出す。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
教科書・テキスト	幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月 文部科学省） 保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年 3 月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配付する。		
成績評価の方法・基準	最終レポートと毎回の授業後に提出する小レポートにより、乳幼児期の人間関係の発達、人と関わる力を育む保育についての理解の程度（70%）、「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。最終レポートについては、採点后講評する。		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された小レポートについては、次回の授業にて解説する。最終レポートについては、採点后講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 最終レポート作成に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 8 時間）		
備 考	—		
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	保育内容（環境）の指導法			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	大類豊太郎						
ナンバリング	ESM1A26	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	幼稚園教育要領と領域「環境」を解説し、領域「環境」に関わる身近な素材で「作って遊ぶ活動」の題材を選ばせ、グループ毎に模擬保育を実演させる。そして、子どもと身の回りの事象とのかかわり及び事象そのものへの理解を深め、領域「環境」における保育内容の指導法を探る。						
アクティブラーニングの実施	○			ICT を活用した授業の実施			
到達目標	・領域「環境」の意義を考えることができる。 ・身の回りの事象について子どもの活動に関わる教材としての価値を探ることができる。 ・グループ毎に、1つの題材を担当し、教材化と指導法について、保育者として模擬保育演習ができる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる。」を身につける。 テーマ：幼児が強い興味や関心を示す身近な事象の理解と子どもへの下ろし方を探る。						
授業計画	第1回	テーマ	領域「環境」の位置づけ、ねらい及び内容				
		内 容	演習の概要と模擬保育のグループ分担				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	領域「環境」の内容の取扱い				
		内 容	領域「環境」の保育活動の理解とグループ分担の日程及び題材の調整				
		授業時間外学修	予習：幼稚園教育要領「ねらいと内容」を熟読する。 復習：領域「環境」の保育活動の題材を調べる。				
	第3回	テーマ	領域「環境」の保育活動の教材研究と指導案（情報機器の活用も含む）と模擬保育演習の準備				
		内 容	作って遊ぶ保育活動の準備の仕方とグループに分かれての教材研究				
		授業時間外学修	予習：どんな保育活動をするかを教科書で調べる。 復習：保育者役としての教材研究（作って遊ぶ活動の準備）				
	第4回	テーマ	模擬保育演習（科学遊び：空気・水の遊び）*学生の題材選定により変更有り。				
		内 容	・1グループ2～3名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約60分） ・演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。				

		授業時間外 学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
	第 5 回	テーマ	模擬保育演習（科学遊び：音・光の遊び）*学生の題材選定により変更有り。
		内 容	・ 1 グループ 2～3 名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約 60 分） ・ 演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。
		授業時間外 学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
	第 6 回	テーマ	模擬保育演習（科学遊び：磁石・電気遊び）*学生の題材選定により変更有り。
		内 容	・ 1 グループ 2～3 名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約 60 分） ・ 演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。
		授業時間外 学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
	第 7 回	テーマ	模擬保育演習（科学遊び：簡単なおもちゃ作り）*学生の題材選定により変更有り。
		内 容	・ 1 グループ 2～3 名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約 60 分） ・ 演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。
		授業時間外 学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
	第 8 回	テーマ	模擬保育演習（季節遊び：春や夏の活動）*学生の題材選定により変更有り。
		内 容	・ 1 グループ 2～3 名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約 60 分） ・ 演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。 *指導案作成レポート用紙配布（次時以降提出する）
		授業時間外 学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
	第 9 回	テーマ	模擬保育演習（季節遊び：秋や冬の活動）*学生の題材選定により変更有り。
		内 容	・ 1 グループ 2～3 名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約 60 分） ・ 演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。
		授業時間外	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意）

		学修	復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
	第10回	テーマ	模擬保育演習（数や量を使った遊び）*学生の題材選定により変更有り。
		内 容	・ 1 グループ 2 ～ 3 名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約 60 分） ・ 演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。
		授業時間外学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
	第11回	テーマ	模擬保育演習（図形を使った遊び）*学生の題材選定により変更有り。
		内 容	・ 1 グループ 2 ～ 3 名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約 60 分） ・ 演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。
		授業時間外学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
	第12回	テーマ	模擬保育演習（時間・空間を使った遊び）*学生の題材選定により変更有り。
		内 容	・ 1 グループ 2 ～ 3 名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約 60 分） ・ 演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。
		授業時間外学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
	第13回	テーマ	模擬保育演習（文字を使った遊び）*学生の題材選定により変更有り。
		内 容	・ 1 グループ 2 ～ 3 名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約 60 分） ・ 演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。
		授業時間外学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
	第14回	テーマ	模擬保育演習の活動における教材研究のあり方と記録した映像の活用方法の考察
		内 容	領域「環境」における作って遊ぶ保育活動の素材の重要性と教材研究の基本について解説する。
		授業時間外学修	予習：保育者役の記録写真を整理し、発表の準備をする。 復習：映像資料の活用のまとめをする。
	第15回	テーマ	まとめ（幼稚園、保育所、認定こども園における領域「環境」の位置づけ及び小学校の学習との関連）
		内 容	・幼稚園、保育所、認定こども園における領域「環境」の法的根拠と主な相違点の解説を行う

			。
		授業時間外 学修	予習：幼稚園教育要領領域「環境」内容を読み返す。 復習：領域「環境」の保育活動をまとめる。
教科書・テキスト	保育内容環境の実際（伊神大四郎他 建帛社）		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
成績評価の 方法・基準	学生に対する評価：①担当した題材を用いた模擬保育活動の実演とその反省レポート（30%） ②身近な素材及び事象と保育活動の関わりを授業成果として指導案にまとめる力（40%） ③「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（20%）④演習参加の状況（10%）		
課題に対する フィードバックの方法	レポート（模擬保育の感想や指導案）は採点后、講評を行う。		
授業時間外学修	予習は、作って遊ぶ保育活動の教材研究と保育者役グループ毎の話し合いは責任持って実施する（約 30 分）。 演習に使う材料や道具は保育者役の学生が確実に準備する。 復習は、「作って遊ぶ保育活動についての保育者役の感想」（約 30 分）と「実践してみたい題材での指導案」（約 60 分）のレポートを作成する。		
備 考	幼稚園、保育所等の実務経験はないが、小学校教員として 37 年間勤務し、理科教育の実践や管理職の経験を有する。		
連絡先（質問等）	授業前後に、講師控室や教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	保育内容（言葉）の指導法			授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	柏倉弘和							
ナンバリング	ESM2A27	開講時期	2 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	言葉の特性や発達についての知識を深めるとともに、その知識を活用してどのようにすれば幼児に伝えることができるか、映像視聴やディスカッション、絵本等を通して考えさせる。							
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施				
到達目標	・言葉の特性や発達過程に基づいて、幼児に伝わる関わり方を考えることができる。 ・言葉のやりとりを楽しんだり、幼児への適切な関わり方を考えることができる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる。」を身につける。							
授業計画	第 1 回	テーマ	記号や意味、文脈等の言葉の特性について					
		内 容	記号性や意味、文脈とは何か、具体的な言葉に即して考え、言葉の基本的な特性について振り返る。					
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第 2 回	テーマ	言葉によるコミュニケーションについて					
		内 容	言葉によるコミュニケーションがどのようにして成立するか学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 自分の体験を振り返り、どのような時にコミュニケーションが成立したか考えておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第 3 回	テーマ	実習の映像資料を活用し、幼児への働きかけについて考える。					
		内 容	実習の映像資料を視聴し、幼児の意欲を高める言葉掛けについて考える。					
		授業時間外学修	予習： 幼児への望ましい言葉がけについて整理しておく。 復習： 責任実習を想定し、幼児への具体的な言葉掛けについて考える。					
	第 4 回	テーマ	実習の映像資料を活用し、説明について考える。					
		内 容	実習の映像資料を視聴し、どのように説明すればよいのか学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 説明の仕方についてまとめておく。 復習： 責任実習を想定し、具体的な説明の仕方について考える。					
	第 5 回	テーマ	幼児を取り巻く言語環境について					
		内 容	幼児を取り巻く言語環境の変化と社会の変化について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 言語環境として具体的にどのようなものが考えられるか、復習しておく。 復習： SNS が幼児に与える影響について調べる。					

	第6回	テーマ	幼児と絵本について（1）
		内 容	絵本を資料として用いながら、絵本が幼児に与える影響や読み聞かせについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 幼児が好む絵本を調べておく。 復習： 幼児にふさわしい絵本を選び、読み聞かせを練習する。
	第7回	テーマ	幼児と絵本について（2）
		内 容	絵本を活用した活動について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 様々な絵本を読んでおく。 復習： 実習における絵本の活用の仕方について考える。
	第8回	テーマ	実習の映像資料を活用し、導入について考える。
		内 容	実習の映像資料を視聴して、導入の際の話し方や話す内容について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 実習において、導入はどのように行えばよいか復習し、整理しておく。 復習： 責任実習を想定し、導入の内容や方法について考える。
	第9回	テーマ	実習の映像資料を活用し、幼児への関わり方について考える。
		内 容	実習の映像資料を視聴して、全体にまたは個人に対してどのような話し方をしているか学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 幼児への望ましい関わり方について復習し、まとめておく。 復習： 責任実習を想定し、幼児への関わり方について考える。
	第10回	テーマ	保育現場における言葉の使い方について
		内 容	言葉の性質や特徴と信頼関係との関わりについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 信頼関係についての考えをまとめておく。 復習： 信頼関係を成立させるために重要なことを整理する。
	第11回	テーマ	映画を活用し、自分の実習について振り返りを行う。
		内 容	「学校Ⅱ」を視聴し、適切な言葉の使い方について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 実習を振り返り、自分の言葉の使い方を思い出して整理しておく。 復習： 責任実習を想定し、適切な言葉について具体的に考える。
	第12回	テーマ	映画を活用し、自分の実習についての振り返りを深める。
		内 容	「学校Ⅱ」を視聴し、幼児との関わり方について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 実習を振り返り、幼児とどのように関わってきたか思い出して整理しておく。 復習： 幼児と関わる際に大切なことをまとめる。
	第13回	テーマ	実習の映像資料を活用し、制作活動中の関わり方について考える。
		内 容	実習の映像資料を視聴し、制作活動中の援助の仕方について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 幼児への望ましい援助について整理しておく。 復習： 責任実習を想定し、制作活動中の具体的な援助の仕方について考える。
	第14回	テーマ	実習の映像資料を視聴し、指示について考える。
		内 容	実習の映像資料を視聴し、どのような指示をしているか学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 実習において行ってきた指示について整理しておく。 復習： 責任実習を想定し、具体的な指示について考える。
	第15回	テーマ	まとめ
		内 容	これまでの授業を振り返り、まとめを行う。
		授業時間外	予習： 既習内容を振り返り、疑問点等をまとめる。

		学修	復習： 疑問点等について既習内容を確認する。
教科書・テキスト	なし。		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
成績評価の方法・基準	授業中に行う演習により、言葉の特性や発達過程についての理解の程度（30%）、言葉を活用した保育の構想や改善の達成度（30%）、「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（30%）、授業参加度（10%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された演習ペーパー等については、点検後、次回の授業において返却する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。各授業の資料や返却された演習ペーパーを見直し、既習内容を確認するとともに次回の授業内容との関わりを理解する。（約 15 時間）		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、公立中学校にて 12 年間教諭として業務に従事した実務経験を持つ。その実務経験を活かし、言葉の性質や特徴についての理解を深め、言葉を適切に使えるよう事例を挙げながら授業を行う。		
連絡先（質問等）	その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	保育内容（表現（音楽））の指導法			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	白崎直季、高橋寛						
ナンバリング	ESM2A28	開講時期	2 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	幼児が主体的に音楽表現活動にかかわっていくことができるように、領域「表現」のねらい及び内容を理解し、表現活動を通して具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。また、教材研究の過程のプレゼンテーションや模擬保育とその振り返りを通して保育を改善する力を身に付ける。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	・領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し説明ができる。 ・領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 ・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	イントロダクション				
		内 容	領域「表現」のねらいと内容を学び、幼児教育において育みたい感性と表現の関わりについて考える。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 2 回	テーマ	幼児の発達と音楽表現活動				
		内 容	幼児が楽しく音楽活動に取り組める事例を提案し、表現活動を経験することにより、表現活動と保育者の役割について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：幼児が楽しく音楽活動に取り組める具体的な活動を考える。 復習：表現活動を行ってみた感想をまとめる。				
	第 3 回	テーマ	日常保育と行事の取り組み（1）発表会のねらいと保育者の役割				
		内 容	日常保育と行事の関連について学び、幼児の主体的な活動としての行事のあり方について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：幼稚園教育要領 p9～11、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 p9～12 を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 4 回	テーマ	日常保育と行事の取り組み（2）映像を通じた具体的な事例				
		内 容	幼児の行事の様子の映像を視聴し、幼児の主体性を育む行事について考える。				

	回	授業時間外 学修	予習：事前配布資料を熟読してくる。 復習：感想レポートをまとめる。
	第 5 回	テーマ	身体の動きと音楽表現について
		内 容	身体表現を使った音楽表現について学ぶ。
	第 6 回	授業時間外 学修	予習：リトミックについて調べてくる。 復習：感想レポートをまとめる。
		テーマ	保育における歌唱活動（1）行事の歌
	第 6 回	内 容	幼稚園・保育園で歌われる、「たなばたさま」、「うれしいひなまつり」、「豆まき」等の行事の歌を歌い、具体的な保育指導について考える。
		授業時間外 学修	予習：「たなばたさま」、「うれしいひなまつり」、「豆まき」の弾き歌いを練習してくる。 復習：課題曲の練習をする。
	第 7 回	テーマ	保育における歌唱活動（2）季節の歌
		内 容	幼稚園・保育園で歌われる、「おはながわらった」、「あめふりくまのこ」、「ゆき」等の季節の歌を歌い、具体的な保育指導について考える。
	第 7 回	授業時間外 学修	予習：「おはながわらった」、「あめふりくまのこ」、「ゆき」の弾き歌いを練習してくる。 復習：課題曲の練習をする。
	第 8 回	テーマ	保育における器楽活動（1）手作り楽器
		内 容	身近な素材を用いた手作り楽器（マラカスや太鼓など）を制作し、楽しく音楽と触れる幼児の環境について理解を深める。
	第 8 回	授業時間外 学修	予習：手作り楽器のための素材を準備する。 復習：手作り楽器制作の指導案作りをする。
	第 9 回	テーマ	保育における器楽活動（2）合奏
		内 容	合奏をする際の適切な打楽器、旋律楽器の奏法を学び、具体的な保育指導についてまとめる。
	第 9 回	授業時間外 学修	予習：それぞれの楽器の扱い方、準備の仕方について調べてくる。 復習：合奏における保育指導案作りをする。
	第 10 回	テーマ	模擬保育に向けた保育構想と指導案の作成
		内 容	音楽表現を用いた模擬保育のグループ発表の計画を立てる。
	第 10 回	授業時間外 学修	予習：発表に向けた模擬保育案を考えてくる。 復習：計画内容を推敲してくる。
	第 11 回	テーマ	模擬保育に向けた保育構想と教材研究
		内 容	模擬保育の発表に向けての教材研究とその準備をする。
	第 11 回	授業時間外 学修	予習：模擬保育に使用する教材の準備をする。 復習：発表に向けての練習をする。
	第 12 回	テーマ	模擬保育の実践(1)教材のプレゼンテーション（情報機器及び教材の活用を含む）
		内容	情報機器を用い教材のプレゼンテーションをグループごとに行う。
	第 12 回	授業時間外 学修	予習：プレゼンテーションを行うための準備をする。 復習：感想レポートをまとめる。
	第	テーマ	模擬保育の実践(2)発表

	13 回	内 容	幼児の音楽表現活動の模擬保育のグループ発表を行う。
		授業時間外 学修	予習：模擬保育の発表の練習をする。 復習：感想レポートをまとめる。
	第 14 回	テーマ	模擬保育の実践と記録について
		内 容	模擬保育発表を行っての記録について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：ドキュメンテーションについて調べてくる。 復習：活動のドキュメンテーションを完成させる。
	第 15 回	テーマ	模擬保育の振り返りと評価
		内 容	模擬保育で使用した教材や発表についての振り返りと評価をお互いに行う。
		授業時間外 学修	予習：模擬保育を実践後の反省と課題をまとめてくる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめてくる。
	教科書・テキスト	保育のピアノ伴奏 1 2 か月（西東社） こどものうたベストテン（ドレミ出版）	
	参考書・参考資料等	幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月 文部科学省） 保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年 3 月 内閣府・文部科学省・厚生労働省） また、授業時に資料を適宜配布する。	
成績評価の 方法・基準	課題レポートや模擬保育発表においての振り返り、評価まで含めた内容により、音楽表現活動と幼児の感性を育む力についての理解の程度（70%）、「自分で考え、実践できる能力」（2）「実践について理解したり、分析したりすることができる」獲得の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	制作した教材や発表、レポート課題について授業内で講評を行う。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 模擬保育発表に向けて教材研究や発表内容を都度見直し、練習を行う。（約 8 時間）		
備 考	必要に応じて、授業予定を変更する場合がある。		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 高橋：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 白崎：火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後、アポイントメントにより質問を受け付ける。		

授業科目	保育内容(表現(造形))の指導法			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	花田嘉雄						
ナンバリング	ESM2A29	開講時期	2 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	・ 幼児の造形遊びを追体験するとともに、スライドや映像等の視聴覚資料による幼児の遊びの姿と学生の取り組みの違いから幼児の表現や思いなどを考察する。 ・ オリジナルのパネルシアターを制作し、幼児とのコミュニケーションを意識した模擬保育を行う。 ・ 教材研究を通して幼児が造形遊びをする上でのポイントを整理し、それを参考にして造形分野の指導案を作成する。 ・ 「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	・ 幼児目線で造形遊びを捉えることにより、幼児の表現や思いなどを理解し、幼児の主体性を大切にしたい保育を行うための環境構成や言葉掛けについて考える。 ・ 教材研究を通して造形遊びをする際のポイントを把握し、幼児の年齢に合った活動を考慮しながら指導案を作成する。						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション				
		内 容	表現領域の造形分野におけるねらいと内容、評価、就学後の図画工作、生活科とのつながりについて学ぶ				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読んでおく。 復習：授業内容を見直し、要点をまとめる。				
	第2回	テーマ	保育教材をつくって実践する：パネルシアター①				
		内 容	パネルシアターの魅力に触れる。携帯用のパネルを作成する。				
		授業時間外学修	予習：パネルシアターについて予習する。 復習：模擬保育（パネルシアター発表）の内容について考える。				
	第3回	テーマ	保育教材をつくって実践する：パネルシアター②				
		内 容	パネルシアターの構想を練り、下絵を描く。				
		授業時間外学修	予習：模擬保育（パネルシアター発表）の内容について考える。 復習：下絵づくりを完成させる。				
	第4回	テーマ	保育教材をつくって実践する：パネルシアター③				
		内 容	パネルシアターの下絵に着色する。				
		授業時間外学修	予習：着色について考えておく。 復習：パネルシアターを完成させる。				

	第 5 回	テーマ	保育教材をつくって実践する：パネルシアター④
		内 容	パネルシアター発表（模擬保育）のための指導案を作成し、発表準備をする。
		授業時間外 学修	予習：発表（模擬保育）の流れを想定しておく。 復習：指導案（部分案）を完成させ、腹案を考えておく。
	第 6 回	テーマ	保育教材をつくって実践する：パネルシアター⑤
		内 容	パネルシアター発表（模擬保育）をする。
		授業時間外 学修	予習：どのように発表（模擬保育）するかシミュレーションをする。 復習：自分と他者の発表についてレポートをまとめる。
	第 7 回	テーマ	幼児の造形あそび①
		内 容	幼児の絵の具遊びについて学び、実際に幼児の気持ちになってぬたくり遊びをする。
		授業時間外 学修	予習：幼児がどのような絵の具遊びをするか考えてくる。 復習：絵の具遊びについての簡易レポートを書いて提出する。
	第 8 回	テーマ	幼児の造形あそび②
		内 容	第8回でできたものを活用してコラージュ遊びを行うことによって、造形遊びの繋がりについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：コラージュについて予習してくる。 復習：コラージュ遊びと保育の繋がりについて振り返りをする。
	第 9 回	テーマ	幼児の造形あそび③
		内 容	新聞紙を活用した造形遊びを体験し、身近な素材の可能性を広げる。
		授業時間外 学修	予習：新聞紙でどんな遊びができるか想定してくる。 復習：新聞紙遊びについての簡易レポートをまとめて提出する。
	第 10 回	テーマ	幼児の造形あそび④
		内 容	つくる表現の発達段階について学ぶ。実際に土粘土に触れ、粘土でどんな表現ができるか模索する。
		授業時間外 学修	予習：『保育をひらく造形表現』P. 70～71 を読んでおく。 復習：子どもの粘土遊びについてまとめておく。
	第 11 回	テーマ	造形活動の保育の進め方について
		内 容	DVD で過去の実習生の責任実習の様子を視聴し、保育の進め方や保育者としての関わり方を考察する。
		授業時間外 学修	予習：自分なりの子どもとの関わり方をイメージしておく。 復習：DVD の内容を基にした簡易レポートをまとめて提出する。
	第 12 回	テーマ	教材の研究①
		内 容	小麦粉粘土の教材研究を通して、実際に子どもに対して保育する際の留意点を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：教材を準備する。 復習：教材研究についての簡易レポートをまとめて提出する。
	第 13 回	テーマ	教材の研究②
		内 容	牛乳パックを使った保育教材（跳ねるおもちゃ）をつくり、教材研究を通して実際に子どもに対して保育する際の留意点を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：教材を準備する。 復習：教材研究についての簡易レポートをまとめて提出する。
	第	テーマ	責任実習に向けた教材研究をする

	14 回	内 容	季節に合わせた制作活動を各自で考え、教材研究を通して幼児にとっての活動上のポイントや留意点を把握する。
		授業時間外 学修	予習：活動内容を考え、教材を準備する。 復習：教材研究についてのポイントをまとめて提出する。
	第 15 回	テーマ	責任実習に向けた指導案の作成、授業のまとめ
		内 容	第14回の内容についての指導案を作成することを通して作成上の要点を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：指導案に書く保育内容を整理しておく。 復習：指導案を完成させる。
	第 16 回		完成させた指導案を提出する。
教科書・テキスト	保育をひらく造形表現（槇英子著 萌文書林） 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）		
参考書・参考資料等	幼保連携型認定こども園教育（平成 29 年 3 月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省） 保育要領（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 授業中に適宜資料を配布		
成績評価の 方法・基準	教材研究のレポートや指導案等の提出物（55%）、模擬保育（プレゼンテーション）の発表内容と振り返りによる「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	模擬保育について、授業内で講評を行う。 レポートや指導案等は採点后、添削して返却、または講評を行う。		
授業時間外学修	指導案や課題を完成させ、模擬保育のシミュレーションを行う。（約 5 時間） 予習（各授業回約 20 分）、復習（各授業回約 20 分）、として、授業計画で示された内容を実施する。（約 10 時間）		
備 考	-		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	保育内容（表現（身体））の指導法			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	小田 幹雄						
ナンバリング	ESM2A30	開講時期	2 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児：必修 保育士：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	現代の子どもがおかれている環境をよく知り、健やかに成長するための幼児期の身体表現の目的と必要性を理解する。また、多様な運動遊びを体験する中で、その魅力を見いだし、子どもにその醍醐味を伝えられるようになるとともに、身体を使って豊かな表現ができるようになるために感性を磨き、子どもの発育・発達にどう貢献していくかを共に考えていく。 実技を中心に行うが、必要に応じて座学での授業を実施する。授業内容によっては、グループ活動で教材研究、発表等も行う。なお、課題の内容によりスマートフォン等から、Google form への回答を求める場合もある。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・自分の身体や動きに気づく。 ・身体を動かし、楽しむことで身体に対するイメージを豊かにし、表現することに関心を持つ。 ・子どもの意欲を引き出す環境設定、運動あそびの指導計画の作成及び実践ができる。 ・「自分で考え、実践できる力」（4）「実践における様々な問題を解決することができる」を育てる。						
授業計画	第 1 回	テーマ	ガイダンス・運動遊びにおける保育者の役割				
		内 容	授業の概要について理解する。				
			運動遊びにおける保育者の役割について考える。				
	授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。					
		復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。					
	第 2 回	テーマ	投動作と遊び				
		内 容	投動作の要素が含まれる遊びを実践する。				
			予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。				
	授業時間外学修	復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。					
		第 3 回	テーマ	大型遊具を使った遊び（スラックライン①）			
	内 容		資料映像を鑑賞し、実践しながら特徴と使用方法を学ぶ。				
			予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。				
	授業時間外学修	復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。					
		第 4 回	テーマ	大型遊具を使った遊び（スラックライン②）			
	内 容		スラックラインの様々な活動を実践し、自分の体や動きに気付く。				
			予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。				
授業時間外学修	復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。						

	第5回	テーマ	ガイダンス・幼児期運動指針について
		内 容	後期からの授業概要について理解する。 幼児期運動指針の内容について理解を深める。
		授業時間外 学修	予習：幼児期運動指針を確認しておく。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第6回	テーマ	様々な道具を使った遊び1
		内 容	ディスクやスティックを使った遊びを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。
		授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第7回	テーマ	様々な道具を使った遊び2
		内 容	縄跳びやゴムを使った遊びを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。
		授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第8回	テーマ	大型遊具を使った遊び（パラバルーン①）
		内 容	資料映像を鑑賞し、実践しながら特徴と使用方法を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：実践内容を振り返り、課題や改善点についてまとめる。
	第9回	テーマ	大型遊具を使った遊び（パラバルーン②）
		内 容	パラバルーンを用いての表現をグループ毎に創作する。
		授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：実践内容を振り返り、課題や改善点についてまとめる。
	第10回	テーマ	大型遊具を使った遊び（パラバルーン③）
		内 容	パラバルーンを用いての表現をグループ毎に練習する。
		授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第11回	テーマ	大型遊具を使った遊び（パラバルーン④）
		内 容	パラバルーンを用いての表現をグループ毎に発表する。
		授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第12回	テーマ	グループ演習（模擬保育）の計画と準備
		内 容	グループ毎、模擬保育の指導案を作成し、教材の確認や事前練習、役割分担等について話し合いや準備を行う。
		授業時間外 学修	予習：事前配布した指導案を完成させておく。 復習：グループで指導案の内容を共通理解し、準備と実践を振り返り、自己評価した内容を記録し提出する。
	第13回	テーマ	グループ演習（模擬保育①）
		内 容	グループ毎、計画した模擬保育を実践する。 模擬保育を体験しての評価点や課題点について記録し、発表する。
		授業時間外 学修	予習：模擬保育の内容の確認や準備を行う。 復習：模擬保育の実践を振り返り、評価できる点や課題、今後の対応についての内容をまとめ、提出する。

	第 14 回	テーマ	グループ演習（模擬保育②）
		内 容	グループ毎、計画した模擬保育を実践する。 模擬保育を体験しての評価点や課題点について記録し、発表する。
		授業時間外 学修	予習：模擬保育の内容の確認や準備を行う。 復習：模擬保育の実践を振り返り、評価できる点や課題、今後の対応についての内容をまとめ、提出する。
	第 15 回	テーマ	グループ演習（模擬保育③）
		内 容	グループ毎、計画した模擬保育を実践する。 模擬保育を体験しての評価点や課題点について記録し、発表する。
		授業時間外 学修	予習：模擬保育の内容の確認や準備を行う。 復習：模擬保育の実践を振り返り、評価できる点や課題、今後の対応についての内容をまとめ、提出する。
	第 16 回		
教科書・テキスト	授業内容に応じて適宜資料を配付する。		
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞（フレーベル館） 保育所保育指針＜平成 29 年告示＞（フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞（フレーベル館） コンパス 幼児期の体育-動きを通して心を育む-（建帛社） 幼児期における運動発達と運動遊びの指導（ミネルヴァ書房）		
成績評価の 方法・基準	実践活動と課題提出により、科目の理解と実践力の程度（60%）、「自分で考え、実践できる力」（4）獲得の程度（20%）、授業参加度（20%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	授業時に提出された課題レポートについては内容を確認後に講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 グループ毎の指導案の作成、教材の準備、実践の打ち合わせ及び振り返りの記録とまとめ（約 6 時間） フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約 3 時間）		
備 考	運動に適した服装とシューズを着用し授業を受けること。 運動に制限がある学生は事前に申告すること。		
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 火曜 12:25～12:50 その他、授業前後に教室にて質問を受ける。		